



とちのき

Vol.04

TFC

栃木県では養育里親を「とちのきフォスター」の愛称で呼んでいます。手のひらの形をした大きな葉を持ち、しっかり根を張り、強く大きな木に育つ県木「栃の木」。その「とちのき」と、英語で里親を意味する「フォスター」を組み合わせ、愛情をこめて育てる里親と、その愛情を受け、すくすく育つ子どものイメージを表しています。TFCではこの愛称から機関紙を「とちのき」としました。

令和4(2022)年11月

子どもたちの笑顔のために (栃木フォスタリングセンター開設1周年を迎えて)



川遊びで、はしゃぐ子どもたち

(一社)とちぎ家庭養育推進協議会代表理事
畠山憲夫

今年の7月と9月、フォスタリングセンター主催の子どもキャンプを行いました。子どもたちは里親から離れ、里親は日頃の子育てから解放される、そんな思いから計画されたキャンプでした。参加したある子どもは「みんなで楽しくて、時間を忘れて、ずっといたいと思いました。」と感想を書いてくれました。

栃木フォスタリングセンターが開設され、この1年間にTFCは様々な活動をしてきました。制度説明会、広報活動、里親の研修、里親カフェ、電話相談やフォスタリングパートナーによる家庭訪問など、児童養護施設の里親支援専門相談員や児相の里親委託推進員と力を合わせ実施してきました。また、毎月、県のこども政策課や児童相談所の担当職員との連絡会議を持ち、栃木県の里親への支援について考えています。

里親の養育は中途からの養育です。時に困難を覚えることがあります。委託される子どもたちの中には愛着や発達に問題を抱えている子どももいます。どのような子どもであれ、日々、一生懸命、養育に取り組んでいる里親の皆さんを、私たちは応援したいと思っています。また、里親の中には養育に疲れていたり、不適切と思われる養育をしている人もいるかもしれません。

今年の6月、日本ファミリー・ホーム協議会はファミリー・ホームや里親による虐待の事例集を発行しました。発行の目的は「子どもたちと、全国で子どものために頑張っている里親が辛い思いをしないように守るため。」と記されていました。

栃木県では600人を超える社会的養護を必要とする子どもたちがいます。しかし里親に委託されている子どもは2割弱というのが現状です。そこには様々な課題があります。この現状を変えていくために何をしたらよいか、途方に暮れてしまうこともあるのですが、そんな時、私は子どもたちのことを考えます。生まれた家庭で暮らすことが出来ず、それを受け止めざるを得ない、そんな子どもたちに笑顔になってもらいたい。その笑顔を守りたい、そして子どもたちの笑顔を作り出せる里親を応援したい。そう思いながら、また一步歩んでいくのです。

今後も皆さんのご協力をお願い申し上げます。



里親カフェ



制度説明会での体験発表



とちぎ国体での啓発活動

栃木フォースタリングセンター1周年記念事業 シンポジウム&特別講演より

【シンポジウム】

里親等、社会的養護の担い手をパネリストに迎え、それぞれの現状についてお話し下さいました。「私は愛されている、大切にされている、と感じて育って欲しい」「自立とは一人で何でもできるようになることではなく、困ったときにどれだけ助けを求められるかである。」「できることは限られているが、子どもが育ってきた環境を想像し、子どもの成長を急がず、スタッフも楽しむようにしている」などの養育感。

「入職時の思いと現実とのギャップに悪戦苦闘の日々。子どもからは仕事としてかかわらないで欲しいと言われ、“育てのママ”にチャレンジ。」「育て直しではなく“生まれなおし”的儀式をした里子。子どもが親してくれた。子どもと本音で付き合うことも必要。」など、奮闘する中にも子どもと真摯に向き合う日常に、会場中が引き込まれた。



シンポジウム「中途からの養育と愛着形成」

【特別講演】

子育ては、知識ではなく感性の世界。母親は、知識ではなく、とにかくかわいいから一生懸命育てている。口では表せない可愛さ、心の奥底での響き合い（間主観性）がある。最近、乳幼児期に心の響き合いがうまくいっていないため、心の混乱を起こしている中高生が多い。育つ環境での感覚が、体にしみこみ、心の栄養になる。

子育て混乱を抱えている親への支援は、治療ではなく心の響き合い、間主観的のかかわりを重ねることが重要。甘え子育てが虐待予防につながることを事例を交えてお話し下さいました。

参加者からは、「あまえ」新鮮な言葉との出会い、心に入れて支援したい、などの声が寄せられた。



澤田敬氏による講演
「心の響き合い親支援ー虐待予防をめざして」



里子より

私が家庭の事情で里親さんのところに来てから早7年となりました。そんな7年間を振り返りながら「今の自分」について書いてみました。
(S君 大学1年)

「今の自分」には”将来の夢”がありません。中学時代は良い成績を取れば褒めてくれるから、という理由で勉強し、高校に進学した後も明確な目標も持たず、名門大学に受かれれば周りの人が私のことを認めてくれるだろう、ということだけで勉強してきました。しかし、周りの人達は学校の先生や医者、弁護士など具体的な目標に向かって必死に勉強している人が多くいました。そんな人々を見ていると”将来の夢”もまだない、つまらない理由で勉強している自分と比べてしまい、深く悩むようになりました。学部選びのときも正直に言ってしまえば「なんとなく」という悲しい理由でした。せっかく多額のお金を出して頂いて多くの人の支援があり、わがままをたくさん受け入れてくれてやっとの思いで大学に進学したのに、なぜ自分は期待に応えられることができないんだろう、と考えるようになりました。

そんなるある日、私は有ることに気づきました。「なんとなく」でこの学部を選んだということは無意識に自分が「なんとなく」やりたかったことなのではないか、ということです。それに気づけてから少しづつ自分の学部に親しみを持てるようになりました。今まで適当に受けていた授業も真面目に聞けるようになりました。この「なんとなく」という感覚を今後勉強していく上でより具体的にしていくことができれば、それが「今の自分」になかった将来の夢にすることができるのではないかと考えました。今はまだ”将来の夢”がない悩み多い「今の自分」ですが、いずれは”将来の夢”を見つけ、それを叶えて、希望に満ちた「これからの自分」になれることを信じて日々勉強していきたいと思います。

*S君は社会的養護自立支援事業等を使い
大学生活を送っています。

第67回栃木県里親大会より

栃木県里親大会で行われた各分科会からの報告です。

第1分科会「思春期の子への対応」

参加者は、思春期の里子を養育中の里親さんが多かったが、里親登録されたばかりの未委託の里親さんや、過去に思春期の里子の養育を経験しているペテラン里親さんの参加もあった。内容は、思春期特有の反抗ぶり満載の里子A子の事例をもとにグループ討議が展開された。社会的養護の必要な子どもならではの対応の難しさを皆で語りあった。ファシリテーターの福田雅章先生（養徳園総合施設長）、石川浩子さん（はなの家ホーム長）が、それぞれご自身の体験を元に子どもとの向き合い方、子どもの権利擁護などの話も交え、助言してくださり、とても有意義な時間を過ごすことができた。



（県北児相 加藤）

第2分科会「発達に特性がある子への対応」

発達障害者支援センターふあーゆうの鈴木敦子先生の講話とグループ討議が行われた。先生からは発達には個人差があり、他の子との比較をして焦らないこと。出来ないことを叱らず、取り組んだ行程を褒めて欲しいとあった。行動は否定しても子どもは否定しないこと。完璧な親はいないので、一人で抱え込まず相談してほしいと伝えられた。グループ討議は初めての顔合わせの人が多かったと思われるが、大変盛り上がった。養育中で大変な最中ではあるが、皆さん笑顔で話されているのが印象的だった。



（県南児相 斎藤）

第3分科会「里親支援専門相談員(里専)とのトーク」



乳児院、児童養護施設から里専さんにお越し頂き、5つのグループに分かれ自由にトークしました。里専さんから試し行動の話があると「うちのも同じことがあったな」と声が上がったり、コロナ渦でのマッチングの難しさの話が出たり、様々な体験や悩みが語られました。また、里親さんから「優しく楽しい母でいようと意識している。そうすることで子どもにとって相談しやすい相手になれると思う。」という話があり、これには里専さんも共感されていました。

会全体で共通して上がったのが、困ったときは色々な機関を頼ることの大切さです。子育ては一人で悩まず、みんなでやる、ということを再確認することができました。

（中央児相 多田）

県北地区里親会の活動に思うこと

県北地区里親会会長 石田 巖

夏休み中のレクリエーションが「今回も中止にしましょう。」と流れ、また悔しい思いでいます。ここ数年、新型コロナでこの様なことが何度あったことか。幸い今年は代わりの事業として秋に「那須どうぶつ王国」を計画し、昼食には参加者全員でのバーベキューを予定しています。

県北地区里親会は、夏レクから始まり秋には児童養護施設との交流会、冬のレクと研修会、そして毎月第4火曜日には里親サロンを開催しています。また、県北地区を5つに分けた推進班では、毎年その地域に合った活動を各々実施しています。

里親会の役割は他にもありますが、リフレッシュできる活動は大切であると思っています。しかし事業内容によっては参加者が少ないこともあります、特に里親サロンは中止になることもあります。そのことから多くの皆さんが出でやすくなるよう、今まで平日に開催していた事業は休日にできるよう進めていますし、併せて魅力ある内容についても検討しているところです。

私は、会長になって2年目と経験が浅いことから、多くの方の意見を聞きながら進めたいたと考えています。皆さんのご支援とご協力よろしくお願いします。



とちのきフォスター 時間外電話相談
080-8082-2298

毎週 水曜日 17:00~20:00
※養育中のお子さんに関する相談に限ります。



おめでとうございます

●40年以上にわたって里親活動に取り組んできてくれた、小口 晋さん(前県里連会長)が勲章(旭日双光章)を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

また、栃木県里親連合会から、里親大会(10月23日開催)に併せて、これまでの小口さんの、里親として数多くの子どもたちを養育してくださったこと、里親会の会長として里親普及活動等にご尽力くださったことに心からの敬意を表し、現会長 畠山氏より感謝状が贈られました。



〈文芸社〉

●朝日新聞Reライフプロジェクトと文芸社が創設した「Reライフ文学賞」第1回受賞作として那須塩原在住の鷹栖律子さん(元里親会会員)の里子を迎えて育てた20年間の家族愛をつづった「ハルジオンの花」寄り添って二十年 里子・コウヘイは今巣立つ が長編部門の最優秀賞に選ばれました。特別選考委員をつとめた作家の内館牧子さんはこの作品について「これはもう圧倒される作品でした。本当に素晴らしいと思います。文章も構成も見事なのです。」と評しています。

本のプロローグに記してある「命を授かった子どもたちが一人の人として生きていくために私の微力が役立ち、彼らがやがて自分の力で巣立ちの時を迎える。その日のために一日一日を繰り返してきた」という一文に触れたとき、強い共感と“子どもと関わる”ということを改めて教えられました。すばらしい作品です。是非皆さんも読んでみてはいかがでしょうか。



泗水学園
里親支援専門相談員 山田博幸

4年前に16年ぶりに泗水学園に戻ってきました。3年間は、副園長として勤め、今年度から里親支援専門相談員として勤務していますが、まだ7ヶ月の新米です。初めは、「フォースタリングパートナーって何」という感じでしたが、4月からの7ヶ月で里親についての各種申請・報告、里親関係各種会議、里親登録前施設研修、ケースカンファレンス、国体啓発活動、栃木県里親大会、里親支援など、里親についてよく分からぬ内に、会議や研修、事業等に参加してきました。あっという間の7ヶ月で、少しづつ何を行うのかが見えてきました。また、TFC職員、各施設の里親支援専門相談員、数名の里親さんとも顔なじみになりました。

今後も施設児童の里親委託の推進と21年間の児童養護施設直接処遇職員の経験プラス社会福祉協議会での地域福祉・法人運営の経験を活かし、自分なりの里親支援を行いたいと思います。よろしくお願ひいたします。



〒320-0065
栃木県宇都宮市駒生町1837-3
tel:028-612-6970
fax:028-612-6971
email:tfc2021@circus.ocn.ne.jp

開所時間:9:00~17:00
定休日:日曜日、月曜日、祝日、年末年始

ホームページもご覧ください



<https://tfc2021.jp/>

HPのQRコード

